

第4学年1組 社会科学学習指導案

【日時】令和7年7月24日(木) 9:20~10:05 【場所】4年1組教室 【指導者】本田 隆

本授業の参観の視点

「県民の防災意識が低い」「ハザードマップが分かりづらい」という現状を捉え、佐賀市中心部にはどのような防災マップが必要か、「追究の視点」を用いて議論する姿をご覧ください。

1 単元名 水害から命を守るために

2 単元の構想

(1) 単元について

本単元では、地域の関係機関や人々が自然災害に対して協力をしながら対処してきたことや、今後想定される災害に対して様々な備えをしていることを理解するとともに、地域で起こりうる災害を想定し、命を守るために必要なことを考えていこうとする態度を養うことを目的としている。

佐賀県は昔から水害に悩まされてきた。昭和28年6月に発生した水害、通称28水は県全域に大きな被害をもたらし、その被害額は1年間の県民所得の6割に到達した。この水害をきっかけに佐賀県の治水対策は大きく見直されることになる。しかし、元号が令和に変わってからも令和元・3・5年と2年毎に人命や住居に被害を及ぼした水害が発生している。このような現状を踏まえ、本単元で扱う災害は水害とする。佐賀県地域防災課と佐賀地方気象台からラーニングパートナー（以下LP）を招き、水害に対してどのように対処し、どのような備えをしているのかを学ぶことができるようにする。その上で、佐賀市中心部に住む人々の命を守るためには、どのような防災マップが必要か議論する。このような経験は、児童の水害に対する防災意識の向上に留まらず、将来、県内外問わず様々な地域で生活を営むであろう児童の災害全般に対する防災意識の向上に資すると考え、本単元を設定した。なお、本単元で学習する「関係機関との協力」は、中学校で学習する公民的分野「現代社会を捉える枠組み」につながるものである。さらに、災害に備えて自分たちにできることや社会全体で取り組むべきことについて考えていくことは、地域社会の一員としての自覚を育むことにもつながると考える。

(2) 児童について

本学級の児童（33名）に身近な自然災害を尋ねたところ、大雨と答えた児童が28名（84%）と最も多かった。令和7年5月9日に一斉下校があり、同年6月10日にはバス的大幅な遅延を経験したり、道路が冠水している様子をニュースで見たりしているからであろう。自然災害はわたしたちにどのような影響を与えるかという質問に対して、命の危機に関する回答をした児童は10名（30%）であった。自然災害が発生すると日常の生活を送ることができなくなると認識はしているが、命を危機にさらすものと捉えることができている児童は多くないと考える。

前単元「ごみのしゅりと利用」の学習では、どうすれば佐賀市が出すごみの量を減らすことができるかについて、その方策の効果【実効性】とどうすれば続くか【持続可能性】、多くの市民が取り組むことができるか【実現可能性】の3つの視点を踏まえて議論する経験をしている。

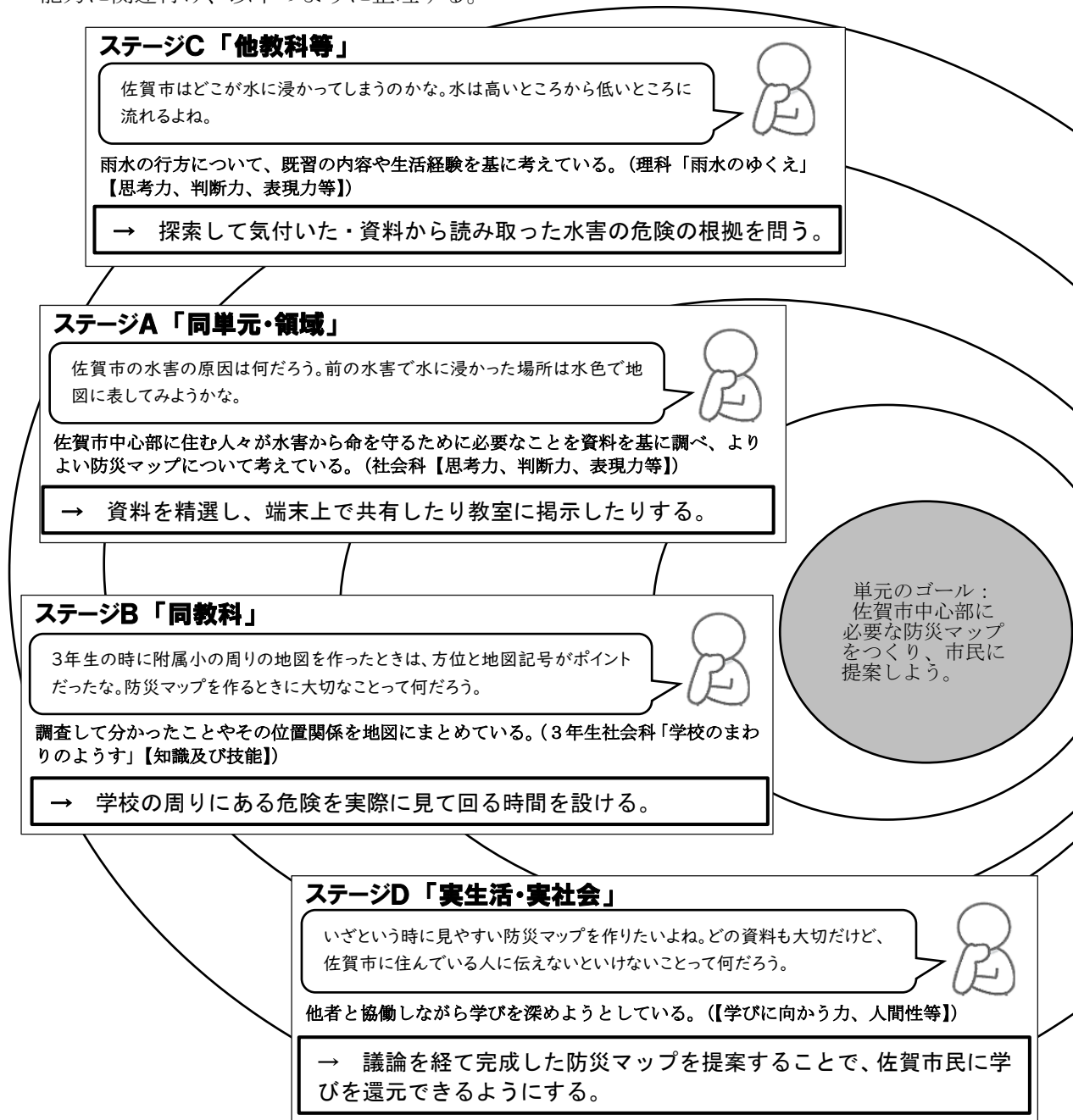
(3) 指導について

指導に当たっては、「つかむ」の段階で、直近の豪雨災害の被害に関する資料や映像資料を提示することで水害の概要を捉えることができるようにする。その後、学習問題に対する予想を基に学習計画を立てていく。「調べる」の段階では、佐賀県の地形特性や雨の特徴、学校の周りにある危険箇所、水害を防ぐ施設と取組、水害発生時の関係機関の連携について調べていく。実際に地域を探索し、消防局の方から話を聞いたり、風水害の疑似体験をしたりすることで、水害を自分事として捉えることができるようにしたい。「高める」段階では、令和6年佐賀県防災意識調査と内水ハザードマップを基にパフォーマンス課題を設定する。課題の解決に向けて佐賀市中心部に住む人々の命を水害から守るための防災マップを作成し、その内容を練り合っていくのである。なお、作成する佐

賀市中心部の防災マップは、学校付近を探索した経験を生かし、以下の手順で作成する。①避難所と浸水域を地図上に記入する。②探索時に見付けた危険箇所や交差点・避難所付近にあるランドマークの写真を配置する。③日頃から備えておくものや佐賀市の地形の特徴など水害に備えるために市民に伝えたい項目を選び、配置する。防災マップづくりや議論に用いる「追究の視点」は分かりやすい防災マップになっているか【実効性】や、防災マップに載せる情報としてふさわしいか【妥当性】、見付けた危険箇所や学んだことを防災マップに盛り込むことができるか【実現可能性】をねらう。児童と共に整理した「追究の視点」を用いた議論を行う中で、教師が適切な問い返しや働きかけを行うことで、よりよい防災マップとはどのようなものか考えを深めることができるようにしたい。「広げる」の段階では、LPより児童が作成した防災マップに対する評価を受けられるようにするとともに、完成した防災マップの活用を自主防災組織に呼びかけ、学びを佐賀市民に還元することができるようにする。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本單元における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付け、以下のように整理する。



3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

過去に発生した水害被害や防災・減災のための活動について調べる活動を通して、関係機関や地域の人々は、様々な協力をしながら水害に対処してきたことを理解し、地域住民の命を守るためにはどのような防災マップが必要か考えることができるようにする。

(2) 評価規準

ア 関係機関や地域の人々は水害に対し、様々な協力をして対処してきたことや今後想定される水害に対し、様々な備えをしていることを理解している。【知識・技能】

イ 調べたことを比較・関連付けたり、総合したりして、地域住民の命を守るために必要な防災マップとはどのようなものかを考え、理由と根拠を明らかにしながら選択・判断している。【思考・判断・表現】

ウ 学習したことを基に、地域住民の命を守るための防災マップを考えることを通して、よりよい防災の在り方について考えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の指導計画（全 12 時間 本時 11/12 時間）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	回遊
一 (つかむ)	1	○佐賀県では過去にどのような自然災害が発生したのか調べる。	・被害を示す資料や映像資料で調べることで、佐賀県は水害に悩まされてきたことに気付くことができるようにする。	◆発生時期や場所を関連付けて、県内で発生した自然災害の特徴に気付いている。 【思・判・表】	A
	2	○学習問題に対する予想を基に学習計画を立てる。 【学習問題】 水害からわたしたちのくらしを守るために誰がどのようなことをしているのか。	・「誰が」「どのようなことをしているのか」ということに着目しながら予想を立てるように促す。	◆学習問題に対する予想を基に問いを考え、解決の見通しをもっている。 【主】	A D
二 (調べる)	3	○佐賀県では、なぜ水害がよく起きるのか調べる。	・県の断面図と雨温図を用意し、既習の佐賀県の地形の様子と関連付けて考えることができるようにする。	◆近年発生した水害の原因について資料を基に読み取っている。 【知・技】	A C
	4・5	○水害によって附属小学校の周りではどのような被害が出る可能性があるか調べる。 ○避難場所や交差点付近のランドマークの重要性を確認する。	・栄城橋を中心に探索を行う区域を四等分することで、学校の周りにおける危険を時間内に見て回ることができるようにする。	◆見学して気付いた危険な場所を地図上に表現している。 【思・判・表】	A B C D
	6	○水害に対する備えにはどのようなものがあるか調べる。	・備蓄品や自主防災組織、お濠の活用に関する資料などを提示し、水害に備えるための様々な準備や取組に気付くことができるようにする。	◆資料で水害に対する備えを調べ、自助・共助・公助のはらたきを理解している。 【知・技】	A D
	7	○水害が発生したときに、警察・消防・自衛隊・市役所はどのようなはたらきをしているか調べる。 ○風水害の疑似体験を行う。	・佐賀広域消防局を見学することで、消防局の方から水害発生時の動きや関係機関との連携について話を聞くことができるようにする。	◆災害が発生した時、人々を守るために関係機関が連携して救助や支援していることを理解している。 【知・技】	A D
三 (高める)	8	○防災アンケートの結果と佐賀市内水ハザードマップに対する気付きを出し合い、パフォーマンス課題を設定する。 ○用いる「追究の視点」について考える。 【パフォーマンス課題】 防災意識は高まっておらず、ハザードマップは分かりづらい。佐賀市中心部に住む人々の命を守ることができる防災マップをつくり、市民に提案しよう。	・アンケートとハザードマップを提示し、県民の防災意識が低いこととマップが分かりづらいという問題点に気付くことができるようにする。 ・マップをつくる目的を問うことで、用いる視点を児童の言葉で整理する。	◆今までの学習を踏まえて、防災マップづくりや議論の際に用いる「追究の視点」について考えている。 【思・判・表】	A B C D
	9・10	○周知が必要な危険箇所の写真や避難場所、浸水区域、ランドマークを地図に書き込む。 ○水害に備えるために必要な情報は何か考える。	・学習してきたことの中で、住民の防災を高めるために必要な資料を問うことで根拠を明確にした上で、防災マップをつくることができるようにする。 ・視点ごとに防災マップを改善するためのアイディアを記入することができるワークシートを配付する。	◆資料を基に、佐賀市中心部に住む人々の命を守るためにはどのようなマップが必要か考えている。 【思・判・表】	
	11 本時	○よりよい防災マップとはどのようなものか、「追究の視点」を基に議論を行う。	・「追究の視点」に沿って議論を進めることができるように、発問を工夫し、多様な意見を引き出すためにグループ化などの働きかけを行う。 ・理由と根拠を明らかにして議論を行うことができるように、根拠を指し示しながら発言をするよう促す。	◆根拠を明確にして意見を述べたり、「追究の視点」を基に議論したりすることで、作成中の防災マップをよりよくするためのアイディアを練っている。 【思・判・表】	
四 (広げる)	12	○議論を基に、よりよい防災マップに必要と考える情報を選択・判断し、防災マップに付け加えや修正を行う。 ○学習を振り返り、感想を書く。	・LPから評価をもらうことで、再度検討できるようにする。 ・自主防災組織に防災マップの活用を呼びかけ、後日、その気付きを児童に伝える場を設けることを伝える。	◆議論の中で生まれたアイディアやLPから指摘された点を踏まえて防災マップを作成している。 【主】	

5 本時の指導 (11/12)

(1) 指導目標

「追究の視点」を基に議論することで、よりよい防災マップとはどのようなものか考えを深めることができるようにする。

(2) 評価規準

イ 根拠を明確にして意見を述べたり、「追究の視点」を基に議論したりすることで、作成中の防災マップをよりよくするためのアイデアを練っている。 【思考・判断・表現】

(3) 展開 (波線部は「回遊する学び」に関わる手立て)

学習活動と児童の反応 (〰〰〰)	教師の働きかけと形成的評価 (◆)												
1 本時の学習の進め方について知る。 (5分) ・LPと一緒に議論できるから、この質問をするぞ。 ・この資料が大切だと思う理由をみんなに伝えるぞ。 ・みんなはどう思っているのかな。	1 学習してきたことを活用しながら議論を進められるように、これまで学習してきた資料等を教室に掲示しておく。 (A)												
佐賀市中心部に住む人々の命を水害から守るために、よりよい防災マップについて話し合おう。													
2 作成中の防災マップをよりよくするための議論を行う。 (30分) (1) 防災マップ (図1) に必要だと思う資料 (根拠) とその理由を説明する。  図1 児童が作成している防災マップ ・防災ネット「あんあん」のQRコードを載せた方がいいと思います。見た人が登録することで、水害の情報をすばやく手に入れることができるからです。 ・欄干のないこの橋の写真は必要だと思います。水が溢れたときに人が通るのは危険だからです。	2-(1) 防災マップを教室に掲示したり、前時に視点ごとに防災マップを改善するアイデアを記入するワークシートを配付したりすることで、それぞれが必要だと思う資料 (根拠) とその理由について考えることができるようにする。 2-(2) 根拠となる資料を示しながら説明をするように促すことで、理由と根拠の関係を掴むことができるようにする。 2-(3) 議論がより深まるように、児童の発言に対して、表1のように働きかける。 (A B C D)												
表1 本時で想定される教師の働きかけの例 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教師の意図</th><th>具体例</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>具体化を促す</td><td>どうすれば分かりやすいマップになるのかな。</td></tr> <tr> <td>多角化を促す</td><td>見やすいかに意見が集中しています。他の視点はどうですか。</td></tr> <tr> <td>深化を促す</td><td>なぜ非常用持ち出し品リストは必要だと考える人が多いのかな。</td></tr> <tr> <td>論点に引き戻す</td><td>今は、水害に備える資料としてふさわしいかを考えています。</td></tr> <tr> <td>多様な意見を引き出す</td><td>どちらの資料を優先すべか、班で話し合いましょう。</td></tr> </tbody> </table>		教師の意図	具体例	具体化を促す	どうすれば分かりやすいマップになるのかな。	多角化を促す	見やすいかに意見が集中しています。他の視点はどうですか。	深化を促す	なぜ非常用持ち出し品リストは必要だと考える人が多いのかな。	論点に引き戻す	今は、水害に備える資料としてふさわしいかを考えています。	多様な意見を引き出す	どちらの資料を優先すべか、班で話し合いましょう。
教師の意図	具体例												
具体化を促す	どうすれば分かりやすいマップになるのかな。												
多角化を促す	見やすいかに意見が集中しています。他の視点はどうですか。												
深化を促す	なぜ非常用持ち出し品リストは必要だと考える人が多いのかな。												
論点に引き戻す	今は、水害に備える資料としてふさわしいかを考えています。												
多様な意見を引き出す	どちらの資料を優先すべか、班で話し合いましょう。												
(2) 気になる点を質問し合う。 ・家の中のチェックリストを載せた方がよいと考えた理由は何ですか。 ・観光客が訪れる場所はどのように確認すればよいですか。 ・令和元年はほとんどの道路が浸水しています。どうやって避難すればいいのかな。 ・佐賀県の水害の歴史は必要な情報ですか。	2-(4) 児童の発言のポイントになる言葉を板書したり矢印でつないだりすることで、よりよい防災マップのあり方の可視化を図る。 (A D)												
(3) 意見交換を行う。 ・観光客も避難できるというのは、いいアイデアだと思う。ランドマークの調べ方はどうしますか。 ・佐賀市の観光課に聞いてみるのはどうだろう。 ・「あんあん」はお家の人も入れている人が少なかったから、防災マップでお知らせしておくのもいいね。 ・お濠は雨水を貯める働きがあるから、赤松小に避難するときに気を付けるように地図に書くべきです。 ・全部載せると情報が多すぎて防災マップが分かりづらくなってしまうから、選ぶ必要があります。	◆ 「追究の視点」を基に作成中の防災マップをよりよくするためのアイデアを練っているか。 (ワークシート、発言) 【思・判・表】 B 根拠を示しながら、「追究の視点」を用いて防災マップの改善案について考えている。 C→ 根拠と理由のつながりの中で疑問に感じたことはないか問う。また、どの「追究の視点」を基にすれば、よりよくするためのアイデアを考えることができそうか友達の意見を取り入れるよう促す。												
3 LPからの評価を受ける。 (5分) ・防災リュックについての項目を入れたいね。準備しておくもののチェックリストも載せると効果的だと思う。 ・もっと見やすくするために、写真を選ぶ必要がある。 ・この議論が危険箇所の対策につながった。嬉しい。	2-(5) 佐賀県民の防災意識や内水氾濫が起こる地形の特徴、大雨をもたらす気候の特色などが話題に上った際は、LPにも積極的に解説や意見を求める。 (B D)												
4 今後の学習の進め方を確認する。 (5分) ・LPが指摘した問題点を解決する方法を考えて、防災マップをパワーアップさせたい。	3-(1) 分かりやすいか、防災マップに載せる情報としてふさわしいかなど議論に用いた「追究の視点」を踏まえてLPに評価してもらう。 (D) 3-(2) LPからの評価の中でポイントとなる言葉を「追究の視点」ごとに色分けして板書することで、問題点の可視化を図る。												
	4 次時では、議論の中で明らかになった問題やその改善案、LPから指摘された問題点を踏まえて防災マップに必要な資料について最終的な選択・判断を行うことを確認する。												